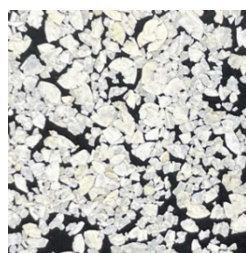


‘コシヒカリ’における 被覆崩壊性を改良した緩効性肥料の施肥効果



Jコート



エムコート(慣行被覆)

図1 施肥から1年後の被覆崩壊程度

注) ジェイカムアグリ株式会社提供

肥料	成分 (N-P ₂ O ₅ -K ₂ O)	速効性	緩効性		
			非被覆	早期崩壊性被覆	慣行被覆
Jコート肥料	17-17-17	45.9	18.6	35.5	—
新エムコート777	17-17-17	45.9	18.6	—	35.5

注) 非被覆肥料としてグッドIB、早期崩壊性被覆肥料としてJコートSE、慣行被覆肥料としてエムコートS100Hを使用した。各肥料に含まれるコート肥料の溶出期間は、グッドIBは60日、JコートSEおよびエムコートS100Hは100日である。

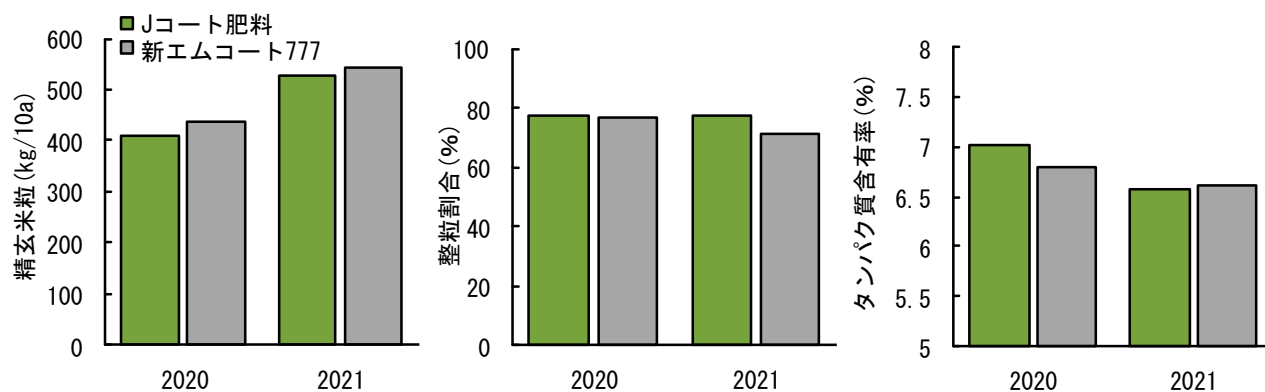


図2 Jコート肥料と新エムコート777の収量および品質

注) 移植: 4月7日、側条施肥: 施用窒素量は、2020年ではJコート肥料5.2g/m²、新エムコート肥料5.6g/m²、2021年ではJコート肥料5.7g/m²、新エムコート肥料6.4g/m²を施用5.6g/m²を施用、栽植密度: 18.5株/m²で栽培

水稻栽培では被覆によって肥料の溶出を調整する緩効性肥料が広く用いられています。一方で、溶出した後に残る被覆殻が水田から川や海に流出し、問題となっています。このことから、近年、新たに開発された崩壊しやすい被覆(以下、Jコート)は早期崩壊およびそれによる代かき時の浮上抑制が水田外への流出抑制に寄与すると期待されています(図1)。しかし、このJコートを用いた肥料は慣行肥料の新エムコート777に比べ、肥料の溶出がやや早くなる傾向があり、これらの肥料間で施肥効果に差が生じることが懸念されていました。

そこで、新エムコート777と、新エムコ

ート777の被覆のみをJコートに替えた肥料(以下、Jコート肥料)を施用した場合の‘コシヒカリ’の収量および品質を比較しました(表)。

その結果、Jコート肥料と新エムコート777の収量および品質に大きな差は見られず、Jコート肥料は新エムコート777と同程度の施肥効果を示すことが明らかとなりました(図2)。

今後も、環境負荷の低減に向けて、被覆を用いない緩効性肥料等の栽培試験に取り組む予定です。

(水田作物担当 武田俊也 088-863-4916)

高知県農業技術センターニュース 第108号 令和4年6月1日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 高橋昭彦

農業技術センター

〒783-0023

高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064

高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801

吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>